

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200074		
法人名	社会福祉法人 姫戸福祉会		
事業所名	グループホーム ひめど		
所在地	熊本県上天草市姫戸町姫浦2544-6		
自己評価作成日	平成25年2月14日	評価結果市町村受理日	平成25年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成25年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは地域の中心にあり、中学校、商店、郵便局、美容室、市役所の支所等が近隣にあり、散歩中などは、気軽に近隣の方から声を掛けていただき、また、買い物や散髪なども手近に済ませることができる。医療面でも階下が医院であり、主治医とも密に連携が行える。運営面ではISOの認証を取得しており、接遇についても年2回講師を招いて研修を行い、継続的にサービスの改善、向上に取り組んでいる。建物内の環境についても、清潔さを心がけ、居心地の良い空間となるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人特別養護老人ホーム「翔洋苑」は、平成16年7月にISO9001認証を取得して質の向上を図り、接遇研修では「尊厳の保持」や「自立支援」に向けて力を入れ、よりよいサービスの提供に力が入れられている。また、記録システムを導入して記録時間の短縮を行い、そのデータ分析を行うことで入所者のサービス向上を図るなど、斬新な手法で、職員と入所者の係わりを深めている。尚、職員間の情報共有とペーパーレス化を図った「法人内RAN」の導入、労働意欲向上を目指した「人事考課・キャリアパス」など、職員の働きやすい職場としても機能しており、母体法人と一体化して安心・安全で笑顔のある細やかなサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年4月の法人内異動で間もない職員については、理念についての十分な理解が得られるまでにはない状況であるが、行事や日々の実践の中で意義や役割について意識できるように取り組んでもらっているところである。	現在の理念は開設当時の職員が作ったもので、今の利用者様のニーズと職員の想いに合った、新しい理念を作ろう・・・と、職員それぞれが現在思案中。母体法人の理念を基本として「直接介護に当る現場感覚で実践に繋がる理念にしたい」と意欲的で、住み慣れた地域での人間関係を保ちながら老後を過ごすて頂くことを基本にするという新しい「理念」が期待される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	階下が病院の為、受診のついでにと面会にこられたり、近隣は民家や商店があり、散歩途中に声を掛けていただいたりしている。	事業所は姫戸町の中央に位置し、姫戸地域センターや中学校・商店・民家に囲まれた病院の2階にある。馴染みの人が「病院に受診に来た、郵便局まで来たから・・・」と、面会に立ち寄られたり、自らも、散歩や買い物、学校の運動会へ応援に出掛けるなど、日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の普及活動として「認知症サポーター養成講座」の講師をしたり、高校の福祉課の実習受け入れなどを行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や日々の活動報告、年度の事業計画等の報告・説明を行い、意見・要望・助言などをいただいている。いただいた内容については、ミーティングで話し合い改善に繋げるようにしている。	会議では、最も活発に意見を出して下さる公民館長さんの的を得た発言に頭が下がったり、適正化委員会からの意見に胸が痛んだり・・・外部からの意見が大切にされている。全ての意見を「自分の親・兄弟が利用してくれる施設」になるための貴重な意見と捉え、サービス向上に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、ほぼ毎回、市役所職員の方が出席され、意見やアドバイスをいただく機会としている。	市町村担当者には運営会議の20日前には案内を出し、出席を依頼。発言はなくとも、事業所・利用者の様子や家族の想いなどを知って貰う事が大切としている。また、法令関係での解釈が分からない時、県まで問い合わせるなど、良好な関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会や振り返る機会を設け、職員一人ひとりが意識し、適切なケアが行えるよう取り組んでいる。	事業所が最も大切にしているのが「接遇」。利用者が「イヤという事は絶対しない」ことを前提に、採血も点滴の際も、階下の病院から看護師が来て、重度の人でも必ず説明し了解を得る事を大切にしている。点滴時は無理強いせず、ベッドサイドにパソコンを持ち込み、仕事しながら終わるまで見守り、付き添う対応が取られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修会を実施したり、会議やミーティングなどで、振り返る機会を設け、職員の理解と周知を行い、虐待を行わないケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、職員各々での学習や内部研修会などで学んでいる。必要と思われる入居者の方へは、説明を行い、市の担当者へ繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、法改正の際は、時間を取っていただき説明し、その後に、疑問や不安な点がないかなどの確認を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	4月、9月、12月にご家族に集まっていたく機会を設け、また、2ヶ月毎に開催している運営推進会議で、意見や要望をうかがうようにしている。いただいた内容については、随時検討を行っている。	ホーム入居前の病院や施設では、家族の面会後は里心が付き、「帰宅願望が出て困る」と言われていた家族も、現在は逆「に毎日でも顔を見せてあげて下さい」と、ホームでの安定した暮らしを足繁く見に訪れるようになり、その都度自由な意見や気持ちの交換もでき、ホームの運営に活用されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員満足度調査や、個人面談、毎月のミーティングなどを通して意見や要望、提案を聞く機会とし、職員全体会議や主任者会議で検討を行う等している。また、職員の意見箱や施設長へのメールなども利用できる。	毎月一回は夜間に全員が揃い、落ち着いて話し合うことが出来る会議を実施。「介護は誰でもできる仕事ではない」ことを前提に、キャリアパス要件を満たし、説明責任を果たす幹部のブレナイ発言が職員の信頼に繋がっている。今年の重点目標は「エビデンスケア・根拠あるケアの実施」で、週2回施設長を講師に勉強会を開催し、理論からスタートさせ、意見・意思の反映に活用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課と個人面談により評価を行い、毎月、安全衛生委員会で職場環境や心身の状況などの把握や整備、対応に努めている。また、産業医との面談の機会も年2回確保されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課や個人面談を通して把握を行い、力量に応じて研修会の参加や、資格取得への支援が受けられる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の居宅介護事業所協議会の役員をしたり、グループホーム協会の研修会参加などで交流や勉強会の機会を設け資質向上に取り組んでいる。また、個人の介護福祉士会の入会金や年会費についても助成を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される以前から、ご本人を訪問したり、ご家族と面談を行ったりと関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や契約時には時間を取り、ゆっくり話を聞かせていただき、入居後も様子報告を行いながら、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談やアセスメント時に、どのような暮らしを望まれているかを、ご本人やご家族からうかがい把握するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのできることに応じて、洗濯物干しやたたみ、料理や買い物など日々の役割として手伝っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や外出、病院受診などご家族が関わってくださる場面がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所の近隣に住んでおられた方は、散歩の途中に地域の方に声を掛けていただき話をされたり、離れた地域から入所された方は、事業所の車で出掛けたりしている。	階下にある母体法人「姫戸医院」に通院する馴染みの人がホームを訪ねてくれたり、病院からの連絡で入居者がエレベーターを使って下り、待合室で話込むなど、病院を通して交流の機会を多く作られている。また、散歩・買い物など、日常的に外出の他、お寺参り・地藏まいり・老人会など、これまでの地域との関係が途切れないような支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性についての情報は、職員間で共有できるようにしている。その上で、座る場所などにも配慮しながら楽しく過ごしていただけるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方については、入居者様と面会に行き話をしたり、在宅生活に戻られた方も、事業所を訪れてくださっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話や日々の様子から把握した情報は職員間で共有し、意向に沿った支援ができるように努めている。	9人の入居者は其々に異なった人生を過ごして来ており、価値観や意向が異なるのは当然で、相性の悪い人や、耳が遠く音量大きくTVを見たい人・その音がガマンできない人等等、共同生活での個別対応に検討が重ねられ、快適な生活支援のための対応に努力されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から話を聞くなどして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子や活動内容については、その都度記録し、口頭でも申し送りを行い、情報を共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は、ご家族・ご本人に話をうかがうようにしている。作成した介護計画は、定期的なモニタリングや必要に応じてカンファレンスを行い現状に応じたケアが提供できるようにしている。	介護計画とモニタリングは、力量の異なる職員でも同じ判断・対応になるよう「記録ソフト」を活用しながら実施されている。服薬も自分で飲む人・介助が必要な人・粉薬が入菌に入り込む人・錠剤が苦手な人と様々で、咽喉をゴックンと通り過ぎるまで確認するなど、個別対応をチームで検証しながら実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録ソフトを活用し、日々の様子や気づきなどの情報を共有している。また、情報はデータ化しやすく、ケアの見直しや評価に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出、帰省の送迎を行ったり、誕生日はご本人の希望に沿った内容で行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見やドライブなどの外出には母体施設の車を借り皆で出掛けることができる。また、町民体育祭などの見学では、地域の方がテントを準備してくださるなど、支援をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常は階下の姫戸医院を利用されるが、専門病院の受診が必要な時は、ご家族の協力をいただきながら受診している。	「今日は腰が痛い、足が痛い」と、階下の病院へ電気治療へ気軽に掛けているが、主治医の専門外の診療には紹介状を貰い、家族と共に本渡や龍ヶ岳・松島の病院を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	階下が医院であり、日頃から細かな体調の変化などについてもすぐに相談できる。休日や夜間にも主治医へ相談でき、指示を仰ぐことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を定め、入院や緊急時の受け入れをしていただいている。入院された場合は、病院への面会を行うと共に関係者との連携も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に事業所としてできること、できないことの説明を行い、また、心身機能が低下してこられた時、体調が悪化された時などにも、再度、ご家族や主治医と相談し、必要に応じて関係機関へ繋ぐなどしている。	本来の「グループホームの生活」を考えると、重度化した入居者の支援法は、軽度の利用者とは異なるが、本人・家族が、病院ではなく、最後までホームで過ごしたい旨の希望がある際は、合意を得ながら状況に応じた支援が行われている。尚、入居者には個別の受診ファイルがあり、全職員が主治医の指示の下、同じ情報で対応されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、急変や事故発生に備えている。季節柄、ノロウイルスなどの感染症蔓延防止のため、嘔吐物処理手順に基づいた訓練などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを整備し、定期的に訓練を行っている。また、男性職員は消防団へ入り、地域との協力体制を築いている。	地理的な要因から、大潮の際に大雨が降ると、すぐ傍を流れる川が堤防を越す水量となり、周辺は水浸しになることもあり、DVDを作成し、問題点を出し合うなど、全職員での対応が行なわれている。また、2名の男性職員は地域消防団員としても活躍しており、町内放送で地域へ告知し、消防署からの協力を得るなど対応がとられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業計画に尊厳の保持について盛り込み、実践できるよう取り組んでいる。また、年2回接遇講師を招いて接遇についての勉強会を行い、言葉遣いや態度について学び振り返る機会としている。	ホームでは今年重点目標として「エビデンスケア」を挙げており、利用者主体で人格尊重・誇りやプライバシー確保を掲げ、根拠のあるケア実施のために、週2回の研修会を実施。基本となる理論習得からスタートし、ロールプレイングで入居者の立場・家族の立場で受ける対応の実際を学ぶ機会を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の支援の中でも、職員から積極的に声掛けを行い、思いや希望を聴くように心がけている。また、日常の意思決定についても、せかさず、押し付けにならないよう、ゆっくり考えていただけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の習慣や性格、体調に応じた支援を行うようにしている。外出や個別の希望については、その日にできない場合はいつ出来るのかを説明するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生会や敬老会などの特別な日は数日前から着る服を、ご本人、ご家族と相談して準備している。また、パーマや毛染め、顔のマッサージなど希望に応じた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好の把握を行っている。また、季節の行事食やおやつなど職員と一緒に作ったりしている。	入居者は3つのテーブルに分かれて食事。介護度の近い人たちが同じテーブルにつき、会話も弾んでいた。職員は利用者の昼食が終わってからスタッフルームで一時間の休憩と食事を済ませており、Onとofが明確で、良い対応だと感じた。なお、おはぎや饅頭等を作る際は、下ごしらえに参加したり、外食プログラムとして、地元の人気寿司店へ出掛けるなど、楽しみが多様に準備されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量については随時把握している。食事や水分が取れない時には、時間をずらしたり、食べたい物を聞き提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりを洗面所へ誘導し、口腔ケアの支援を行っている。自分でできない方へは職員が介助を行い、また、夜間は入れ歯洗浄剤で洗浄除菌を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の状態、間隔、排泄用品を把握している。その上で、トイレへの誘導や支援を行い、気持ちよく清潔に過ごしていただけるよう努めている。	入居者全員がオムツ未使用。トイレは広く、介助が必要な入居者もゆっくり二人で利用できるスペースがあり、片隅には排泄後利用できる濡れタオルがウオーマーで保温されている。また、トイレが付いた居室も二部屋あり、自室で排泄を済ませることも。早めの誘導で、トイレをゆっくり利用する様子が見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜を多く取り入れている。運動も午前・午後行い、また、レクリエーションで運動も取り入れている。しかし、中々改善できない場合は、主治医と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は安全にゆっくり入っていただけるように心がけている。そのため、その日に入浴できる人数や時間帯が限られてしまう場合があるが、可能な限り、希望があれば入浴できるように努めている。	入浴は全員がマンツーマンの見守り支援とし、職員は入居者が浴槽利用中はさりげない見守りで、傍から離れないことを決めている。通常、週2～3回の入浴で、菖蒲湯・ゆず湯など、季節を楽しむお風呂の提供も行われ、入居者毎に一か月単位の入浴チェック表が作られ、一目で入浴状況が把握できるシステムとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその日の状態に応じて、居室で休んでいただいたり、リビングソファでくつろいでいただいたりしている。また、夜間は空調にも気を配り、寝具も清潔を心がけ、気持ちよく眠っていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の内容や薬剤の情報については個人ごとにファイルし、状態やそれに伴う薬剤の変更などが随時把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毛糸の花瓶敷きや食器洗い、縫っていたいた雑巾などは事業所で使わせていただいている。日々趣味活動として取り組まれていた、ちぎり絵や習字、絵手紙などの作品は、町の文化祭で展示していただけた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物以外にも、季節に応じて花見や夜間のホテル見学に出掛けたり、神社やお寺へお参りに行ったりと、外出の機会を設けている。たまには、ご家族と外食に行かれたり、法事などへも行かれる。	「グループホームの質は接遇に有り」と、接遇研修を大切に行い、ロールプレイングで利用者の立場や家族の立場・上司の立場での介護サービス提供の質を検討して研修を重ねている。外出支援は、入居者の希望を第一に、樋島の観乗寺へ御参りに出掛けたり、ほたるや花火見学に夜間の外出や「翔洋苑」の夏祭りに参加するなど、多様なプログラムが用意され、ホームに引き籠らないアクティブな外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談し、所持されている方、外出や必要な時にご家族・事業所が手渡す方など、一人ひとりに応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事業所の子機を使っていた。手紙の返事を書くのが困難な方へは、絵手紙で出したりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を飾ったり、本や雑誌などを置き、季節感や生活感を出すようにしている。リビングは、必要ないときはテレビを消し、会話をしたり、静かにくつろげるようにしている。	階段、エレベーターを使ってホームへ入ると、広い廊下が一望にでき、右手にサンタリーコーナー、左手廊下奥にリビングとダイニングキッチンがある。居室は廊下に沿って入り口ドアに暖簾を重ねるように利用され、飾付もシンプルで、こじんまり感が落ち着いた雰囲気を出している。床暖房やエアコンの利用を意識させない温度調整で、テーブルや椅子の高さを利用者サイズに合わせ、足を切るなど、心地よく生活ができる環境作りへの工夫がみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を配置したり、談話コーナーを設けたりし、一人で過ごしたり、気の合う人と話ができる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンスなど使い慣れたものを持ってきていただいたり、ご家族やご本人と相談し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は一部屋の面積が広く、ゆったりとしており、入り口のドアにはそれぞれに目印にもなる暖簾が掛けられ、誤認のない対応とされていた。畳敷きの和室が4部屋、フローリングの洋室が5部屋あり、入居者の好みで畳敷きを洋風使いに対応するなど、柔軟な対応も見られ、心地よく過ごすための支援が垣間見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせて、手摺りの設置や居室の模様替えを行っている。また、トイレや自室が分かりやすいように表示したり、暖簾を掛けたりしている。		